



平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年10月30日

上場会社名 コマニー株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 7945 URL <https://www.comany.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 塚本 幹雄
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 管理統括本部長 (氏名) 元田 雅博 (TEL) 0761-21-1144
 兼総務本部長
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日 配当支払開始予定日 平成27年12月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	13,757	4.1	335	—	355	714.3	12	—
27年3月期第2四半期	13,218	2.6	△62	—	43	△74.9	△90	—

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 17百万円(—%) 27年3月期第2四半期 △144百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	1.41	—
27年3月期第2四半期	△10.12	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第2四半期	31,953	21,790	68.2
27年3月期	32,793	21,916	66.8

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 21,790百万円 27年3月期 21,916百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	16.00	—	16.00	32.00
28年3月期	—	17.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	20.00	37.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

28年3月期期末配当金(予想)の内訳 普通配当 17円00銭 記念配当 3円00銭
 配当予想の修正については、本日(平成27年10月30日)公表の「配当予想の修正(記念配当)に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,700	4.0	1,800	17.2	1,840	12.3	1,070	△34.0	120.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、【添付資料】4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、【添付資料】4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年3月期2Q	9,924,075株	27年3月期	9,924,075株
28年3月期2Q	1,025,083株	27年3月期	1,025,083株
28年3月期2Q	8,898,992株	27年3月期2Q	8,899,151株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
5. 補足情報	10
(1) 受注及び販売の状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による積極的な経済政策や金融政策などを背景に、企業収益の改善や雇用・所得環境の改善が続くなか、景気は緩やかながら回復基調で推移しました。しかしながら、中国をはじめとした新興国の景気減速などの情勢不安は、少なからず日本経済にも影響を与えはじめ、先行き不透明な状況となっております。

このような情勢のもと、当社はオフィス市場や医療・福祉施設向けの営業活動、新築工事などに対し、当社製品を設計段階で推薦していただく活動(以下「設計織込活動」という。)を強化し、お客様のニーズに合った提案やサービスの提供を行うことに重点をおき活動いたしました。

オフィス市場におきましては、特に首都圏のオフィス移転工事などを狙いとしたデザイン提案活動や、新築工事などの設計織込活動を強化した結果、売上高は前年同四半期と比較し4.4%の伸張となりました。医療・福祉施設向けの活動におきましては、エンドユーザーや設計事務所に対して設計織込活動を積極的に行いましたが、期首受注残が低下したことが影響し、売上高は前年同四半期と比較し4.0%の減少となりました。その他には、工場用の間仕切り需要が増加し、工場市場の売上高は前年同四半期と比較し25.8%の伸張となりました。その結果、売上高は137億57百万円(前年同四半期比4.1%増)となりました。

損益面では、販売単価の改善を進めるとともに、製造部門を中心とした収益管理の強化や原価低減活動に全社を挙げて取り組んだ結果、売上総利益率は41.7%(前年同四半期比1.8ポイント改善)となり、営業利益は3億35百万円(前年同四半期は営業損失62百万円)、経常利益は3億55百万円(前年同四半期比714.3%増)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益におきましては、過年度法人税等を計上した結果、12百万円(前年同四半期は親会社に帰属する四半期純損失90百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 日本

日本国内におきましては、政府による積極的な経済政策や金融政策などを背景に、企業収益の改善や雇用・所得環境の改善が続くなか、景気は緩やかながら回復基調で推移しましたが、中国をはじめとした新興国の景気減速などの情勢不安は、少なからず日本経済にも影響を与えはじめ、先行き不透明な状況となっております。その中で、当社はオフィス市場や医療・福祉施設向けの営業活動、新築工事などの設計織込活動を強化し、お客様のニーズに合った提案やサービスの提供を行うことに重点をおき活動いたしました。オフィス市場におきましては、特に首都圏のオフィス移転工事などを狙いとしたデザイン提案活動や、新築工事などの設計織込活動を強化した結果、売上高は前年同四半期と比較し4.4%の伸張となりました。医療・福祉施設向けの活動におきましては、エンドユーザーや設計事務所に対して設計織込活動を積極的に行いましたが、期首受注残が低下したことが影響し、売上高は前年同四半期と比較し4.0%減少となりました。その他には、工場用の間仕切り需要が増加し、工場市場の売上高は前年同四半期と比較し25.8%の伸張となりました。その結果、当セグメントの売上高は134億1百万円(前年同四半期比5.4%増)となり、営業利益は5億66百万円(前年同四半期は営業利益1百万円)となりました。

② 中国

中国国内におきましては、格満林(南京)実業有限公司の譲渡に伴い、生産や営業などの機能を格満林(南京)新型建材科技有限公司に移管することなどにより、体制を整備してまいりました。新工場稼働の準備を進めながら営業活動を行った結果、売上高は3億55百万円(前年同四半期比29.6%減)となりました。受注高におきましては、以前より活動を続けてきたコンピュータールーム市場と病院市場を中心に積極的に活動をした結果、前年同四半期と比較し11.9%の伸張となりました。損益面については、新工場の稼働準備に係る経費などが増加した結果、営業損失は2億24百万円(前年同四半期は営業損失61百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較し8億40百万円減少の319億53百万円となりました。

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末と比較し19億54百万円減少の179億27百万円となりました。これは主に、商品及び製品が5億46百万円、原材料及び貯蔵品が2億49百万円増加しましたが、受取手形及び売掛金が23億63百万円、現金及び預金が3億29百万円減少したことなどによります。固定資産は、前連結会計年度末と比較し11億14百万円増加の140億25百万円となりました。これは主に、投資有価証券が1億17百万円減少しましたが、建設仮勘定が8億79百万円、機械装置及び運搬具(純額)が3億15百万円増加したことなどによります。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末と比較し5億45百万円減少の54億13百万円となりました。これは主に、短期借入金が1億7百万円増加しましたが、未払法人税等が2億90百万円減少したことなどによります。固定負債は、前連結会計年度末と比較し1億69百万円減少の47億49百万円となりました。これは主に、長期借入金が1億62百万円減少したことなどによります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比較し1億25百万円減少の217億90百万円となりました。これは主に、利益剰余金が1億29百万円減少したことなどによります。自己資本比率は、前連結会計年度末と比較し1.4ポイント上昇の68.2%となりました。

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の四半期末残高は69億82百万円で、前連結会計年度末と比較し3億29百万円減少しました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は、11億5百万円(前年同四半期と比較し5億3百万円減)となりました。これは主に、減価償却費3億13百万円、売上債権の減少額23億66百万円などによる増加と、たな卸資産の増加額8億6百万円などによる減少であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、12億77百万円(前年同四半期と比較し2億99百万円増)となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入2億8百万円による増加と、有形固定資産の取得による支出13億34百万円などによる減少であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は、2億3百万円(前年同四半期と比較し2億81百万円減)となりました。これは主に、短期借入金の純増加額1億97百万円などによる増加と、長期借入金の返済による支出2億60百万円、配当金の支払額1億40百万円による減少であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予測につきましては、平成27年10月23日に平成28年3月期第2四半期累計期間の業績予想を修正いたしました。日本経済の動向が先行き不透明な状況であり、平成27年4月30日に発表しました通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載する方法に変更しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額ははありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,311	6,982
受取手形及び売掛金	9,646	7,282
商品及び製品	913	1,459
仕掛品	92	106
原材料及び貯蔵品	856	1,106
繰延税金資産	300	293
その他	807	741
貸倒引当金	△45	△44
流動資産合計	19,882	17,927
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,230	2,175
機械装置及び運搬具（純額）	878	1,194
土地	3,426	3,426
建設仮勘定	1,813	2,693
その他（純額）	132	120
有形固定資産合計	8,480	9,610
無形固定資産		
その他	692	763
無形固定資産合計	692	763
投資その他の資産		
投資有価証券	2,108	1,991
長期貸付金	53	48
繰延税金資産	569	602
その他	1,040	1,044
貸倒引当金	△33	△33
投資その他の資産合計	3,737	3,652
固定資産合計	12,911	14,025
資産合計	32,793	31,953

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,861	1,923
短期借入金	535	643
未払法人税等	571	281
賞与引当金	636	698
役員賞与引当金	24	18
その他	2,328	1,849
流動負債合計	5,958	5,413
固定負債		
長期借入金	1,407	1,244
再評価に係る繰延税金負債	348	348
退職給付に係る負債	2,879	2,902
その他	284	254
固定負債合計	4,919	4,749
負債合計	10,877	10,162
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,121	7,121
資本剰余金	7,412	7,412
利益剰余金	7,129	6,999
自己株式	△948	△948
株主資本合計	20,715	20,585
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	585	505
土地再評価差額金	313	313
為替換算調整勘定	354	428
退職給付に係る調整累計額	△51	△42
その他の包括利益累計額合計	1,201	1,205
純資産合計	21,916	21,790
負債純資産合計	32,793	31,953

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	13,218	13,757
売上原価	7,949	8,022
売上総利益	5,268	5,734
販売費及び一般管理費	5,331	5,399
営業利益又は営業損失(△)	△62	335
営業外収益		
受取利息	17	1
受取配当金	16	18
為替差益	10	1
受取賃貸料	8	8
貸倒引当金戻入額	9	1
受取保険金	56	—
その他	24	39
営業外収益合計	143	70
営業外費用		
支払利息	10	20
持分法による投資損失	0	0
売上割引	10	9
減価償却費	7	6
その他	7	12
営業外費用合計	36	49
経常利益	43	355
特別損失		
固定資産除却損	9	2
特別損失合計	9	2
税金等調整前四半期純利益	33	353
法人税等	123	268
過年度法人税等	—	71
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△90	12
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△90	12

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△90	12
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	102	△79
為替換算調整勘定	△184	74
退職給付に係る調整額	27	9
その他の包括利益合計	△54	4
四半期包括利益	△144	17
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△144	17
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	33	353
減価償却費	324	313
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	43	36
賞与引当金の増減額(△は減少)	△87	61
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△13	△6
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△32	△2
受取利息及び受取配当金	△34	△19
支払利息	10	20
有形固定資産除却損	9	2
売上債権の増減額(△は増加)	2,489	2,366
たな卸資産の増減額(△は増加)	△228	△806
仕入債務の増減額(△は減少)	△517	58
その他	△166	△632
小計	1,830	1,745
利息及び配当金の受取額	34	19
利息の支払額	△9	△21
法人税等の支払額	△246	△640
法人税等の還付額	0	1
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,608	1,105
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	36	—
有形固定資産の取得による支出	△959	△1,334
有形固定資産の売却による収入	0	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	208
その他	△56	△151
投資活動によるキャッシュ・フロー	△978	△1,277
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	197
長期借入金の返済による支出	△320	△260
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△131	△140
その他	△33	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△485	△203
現金及び現金同等物に係る換算差額	△139	46
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	5	△329
現金及び現金同等物の期首残高	7,279	7,311
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,285	6,982

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較し著しい変動がありません。

5. 補足情報

(1) 受注及び販売の状況

① 受注実績

当第2四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比 (%)
日本	15,748	104.6	10,402	111.9
中国	621	111.9	1,286	83.8
合計	16,370	104.8	11,689	107.9

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

② 販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
日本	13,401	105.4
中国	355	70.4
合計	13,757	104.1

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。